★認証対象事業所

TUSA DRY SUITS (Ultimate VALVE TYPE)

ドライスーツ 取扱説明書

OWNER'S INSTRUCTION MANUAL

第2版

当製品を使用するにあたっては、各潜水指導団体のドライスーツ専門講習を必ず受けてください。専門講習を受けていない方が使用すると重大な事故につながる危険性があります。
また、使用前に必ずこの説明書を読み、取扱方法と危険、警告、注意事項を完全に理解するようにしてください。
別紙の「排気バルブのメンテナンス」に関する補足取扱説明書も必ずお読みください。

株式会社タバタ
★本社：TUSA営業部
〒130-0005 東京都墨田区東駒形1-3-17
☎03-3624-2815 FAX.03-3624-2817
★大阪事業所
〒540-0012 大阪府大阪市中央区谷町2-4-5谷町センタービル
☎06-6949-2661 FAX.06-6949-2671
九州エージェンシー
〒814-0104 福岡県福岡市城南区別府6-2-32
☎092-847-3681 FAX.092-847-3690
沖縄エージェンシー
〒904-2222 沖縄県うるま市字上江洲272-6
☎098-974-5402 FAX.098-974-5403

◎お問い合わせ先
TUSAお客様相談室 ☎0120-989-023
受付時間：月～金 9:30～12:00、13:00～17:00
〒340-0813 埼玉県八潮市木曽根768
※TUSAのWEB上から、取扱説明書（PDF版）をダウンロードすることができます。
http://www.tusa.net/manual/

はじめに

この度は、TUSAドライスーツをお買い上げいただきまして、まことに有難うございました。

潜水中ドライスーツは、高いシール性で、首と手首回りからの浸水を防ぎ、体を濡らすことがありません。体温の損失による疲労を最小限に押さえ、特に水温の低い海や湖等では、快適なダイビングがお楽しみいただけます。

TUSAドライスーツは、寒冷地や冬のダイビングを快適に楽しんでいただけるよう、最新の素材と、最新の技術で作り上げた自信作です。柔軟な素材を用いたTUSAドライスーツはスタイリングはもちろん、卓越したシーリングが丹念に施され、スーツ内部への水の侵入を防ぎます。さらに独自に開発された排気バルブによってTUSAドライスーツ内の空気は自動的に排気、制御されます。

当製品をご使用になる前に、必ずこの説明書を読み、取扱方法と警告及び注意事項を完全に把握するようにしてください。また、ご不明な点がある場合には、お買い上げの販売店か（株）タバタTUSAお客様相談室（☎0120-989-023）までお問い合せください。万一、誤った使い方をすると、浮上、潜降のコントロールが効かなくなったり、製品自体が壊れるなどして、重症事故や死亡事故につながる可能性があります。この取扱説明書を熟読しなかったことによる、ダイビング中の事故や負傷、また、製品の故障や破損につきましては、TUSAは一切の責任を負いかねます。

また、初めてこのドライスーツを海洋等で使用する際には、事前にプール等の安全な環境下で使用して、操作方法を習熟するようにしてください。

目次

安全のために ………… 3
危険事項 ………… 4
警告事項 ………… 5
注意事項 ………… 6
各部の名称 ………… 7
L.P.（中圧ホース）の取り付け ………… 8
ダイビング前の器材チェック ………… 9
ドライスーツの着用手順 ………… 11
ドライスーツの使用法 ………… 13
日常の点検と保管 ………… 18
防水ファスナーの取り扱い ………… 20
定期点検 ………… 21
その他の注意事項 ………… 21

Uドライスーツ取説
2008/9　第1版
2010/5　第2版

安全のために

スクーバダイビングは、水中という非日常的な美しき世界に我々を導いてくれる、素晴らしいレジャーです。
また、スクーバダイビングに対する正しい知識と器材の正しい取扱方法を理解さえしていれば老若男女を問わず誰でも楽しむことができる親しみやすいレジャーでもあります。

しかし、それらの知識と取り扱い方法を正しく習得していないと、最悪の場合、重大な事故につながる危険性があることも事実です。そして一方で、その可能性は決して高いものでないことも、ダイバーの皆様は十分ご存知のはずです。

日本スクーバ協会※では、全てのダイバーの皆様にダイビングにおける危険性とは何かをよく認識していただくために、取扱説明書に共通の「危険」「警告」事項を掲載するとともに、「危険」「警告」「注意」表示のそれぞれの意味を以下のように定義いたしました。

※日本スクーバ協会とは、安全性の向上を第一に、ソフト及びハードの両面からダイビング業界の健全な進歩と発展を考えていくことを目的として、日本国内の主要器材メーカー、商社、ウエット（ドライ）スーツメーカー、雑誌社等が集まって構成されている団体です。

「危険」：それを守らないと、最悪の場合重症事故や死亡事故につながる危険性のある、スクーバダイビングに対する知識とスクーバダイビング器材の取扱方法に関する情報。

「警告」：それを守らないと、間接的に重症事故や死亡事故につながる可能性、もしくは、重度の物損事故が起こる可能性のある、スクーバダイビングに対する知識とスクーバダイビング器材の取扱方法に関する情報。

「注意」：それを守らないと、軽症程度の事故につながる可能性、もしくは、軽度の物損事故が起こる可能性のある、スクーバダイビングに対する知識とスクーバダイビング器材の取扱方法に関する情報。

危険

危険事項

●当製品を使用してスクーバダイビングを行うにあたっては、国際的に認知されている潜水指導団体の学科講習及び実技講習を必ず受けてください。（各指導団体のインストラクター監督下における講習中の使用はこの限りではありません。（日本スクーバ協会共通掲載危険事項）

●特に、このドライスーツに関しては、各指導団体のドライスーツ専門講習を必ず受けるようにしてください。ドライスーツを使用するにあたっては、十分な知識と練習が必要です。万一、専門講習を受けていない方が使用すると重大な事故につながる危険性があります。

●当製品をご使用になる前に、必ず取扱説明書をよく読み取扱方法と危険、警告及び注意事項を完全に理解するようにしてください。また、ご不明な点がある場合には販売店もしくは、（株）タバタTUSAお客様相談室（☎0120-989-023）にて必ず説明を受けてください。万一、間違った使い方をすると浮上、潜降のコントロールが効かなくなり、重大な事故につながる可能性があります。

●Cカードを取得している方でも、もし、減圧症やエアーエンボリズムなどの発生メカニズムと、それを防ぐ方法を十分に理解出来ていない場合は、講習を受けた指導団体のテキストブックを必ず理解出来るまで読み返してください。基本的な知識のないままダイビングを行うと重大な事故につながる可能性があります。スクーバダイビングを行う際には絶対に一人で潜らず、必ずバディシステムを守るようにしてください。単独潜水は重大な事故につながる可能性があり、大変危険です。（日本スクーバ協会共通掲載危険事項）

●ダイビング数でタンク100本、または使用状況にかかわらず、購入後もしくはオーバーホール後1年間を経過した時点を目安に必ず販売店に器材の点検を依頼し、必要に応じてオーバーホールを受けるようにしてください。定期的なオーバーホールを怠った場合は器材が正常に作動せず、重大な事故につながることがあります。（日本スクーバ協会共通掲載危険事項）

警告

警告事項

●スクーバダイビングを行う際には、必ず良好な健康状態で行ってください。少しでも、寒気を感じたり、疲れていたり、気分が悪かったりする場合には絶対に無理を避け、ダイビングを中止してください。(日本スクーバ協会共通掲載事項)

●スクーバダイビングを行う前には、アルコールの摂取はもちろんのこと薬品類(特に､点鼻薬やかぜ薬等)の服用も避け、体調の悪い人や持病のある人は必ず事前に医師の診断を受けてください。(日本スクーバ協会掲載事項)

●ドライスーツはゲージ、レギュレーター、BCJ等と共にダイバーの命を預かる大切な器材です。ダイビングを行う前には必ず各部を点検し(P9参照)、各バルブの作動不良、防水ファスナーやシール部分(首、手首)の破損等の異常がある場合や、少しでも疑いがある場合には絶対に使用せず、すみやかに販売店、もしくは、TUSAメンテナンスセンターにて点検、修理を行ってください。(P21参照)

●長期間(3ヶ月以上)使用しなかった場合には、使用前に必ず販売店にて点検を受けるようにしてください。もし、これらの点検、整備を怠った場合、器材が正常に作動せず重大な事故につながることがあります。(P9参照)

●別紙の「排気バルブのメンテナンス」に記載されているパーツ以外の分解は絶対にしないでください。また、規格外のパーツを取り付けたり、勝手に改造を加えることもおやめください。ドライスーツの点検、修理には特別な道具と技術、検査設備が必要です。万一、ご自分で分解したり、改造した場合には、水漏れ、故障の原因となり、重大な事故を招く危険性があります。L.P.(中圧)ホースは、特に破損や不良箇所がなくても、また使用状況にかかわらず、1〜2年毎を目安に販売店にて点検を受け、必要があれば交換するようにしてください。長期間交換しないまま使用し続けると、外観上問題がなくても、経年劣化により破損を招く場合があり、非常に危険です。(P8参照)

●ドライスーツ用L.P.(中圧)ホースのレギュレーターへの取り付けは必ずお買い上げの販売店に依頼し、トルクレンチ等の専用工具を用いて締めつけを行ってください。個人で取り付けると、締め付けの不良などによってホースが外れ、重大な事故を招く可能性があります。また、逆に必要以上のトルクでしめつけると、ネジ山を痛める場合もあります。(P8参照)

●浮力の調整には、BCJを必ず使用してください。給排気バルブが故障した時にBCJを装着していないと、浮力の確保が出来なくなり、重大な事故につながる危険性があります。

注意

注意事項

●ダイビング器材は、メーカー、品番によって仕様及び操作方法が異なりますので、なるべく他人に貸さないようにしてください。もし、貸し出す場合には、必ずこの取扱説明書を添付してください。

●皮膚の過敏な方やアレルギー体質の方は使用前に医師の相談を受けてください。また、皮膚にアレルギー症状が起こった場合には使用を中止して、医師の診断を受けてください。

●ドライスーツの素材、水温、運動量等を考慮して、必ず適正な保温力のインナーウェアを着用するようにしてください。

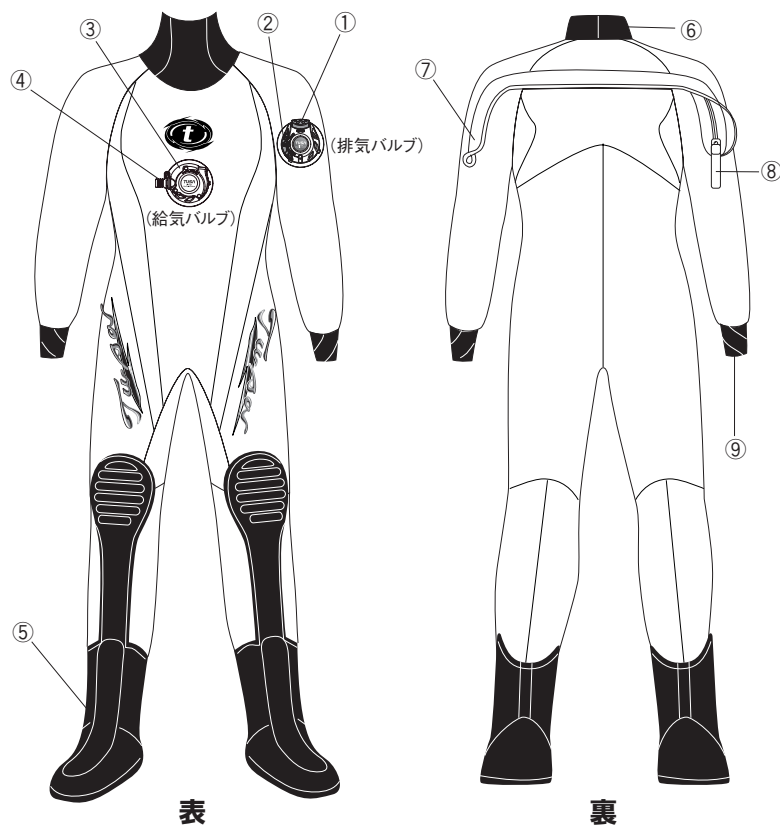
●ドライスーツを着用する際には、砂や土、ほこり等のない平坦な場所かシートを敷いた上で、できるだけ腰掛けられる地形や施設を利用してください。水没の原因となりますので、特に、シール部分、防水ファスナー、各バルブ、L.P.ホースカプラーに砂や異物がつかないようご注意ください。

●防水ファスナーは強く折りまげないようにしてください。

●TUSAドライスーツは空気潜水専用です。特殊ガスでの使用は絶対にやめてください。

●フット(排気)バルブ付のドライスーツでは、岩場でのビーチエントリー時などにバルブを破損しないようにご注意ください。

●過剰にドライスーツ内にエアーを入れたままの状態で水中に飛び込むと、ファスナーに負荷がかかり大変危険ですので絶対にやめてください。(P12・8参照)

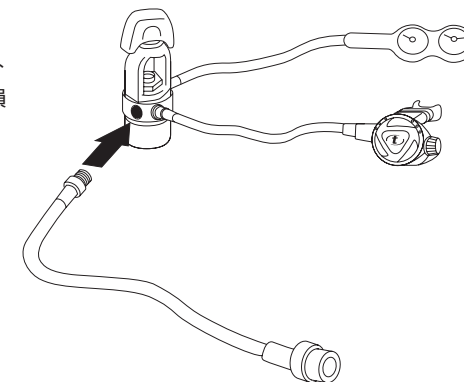
各部の名称

L.P.(中圧ホース)の取りつけ

L.P.(中圧ホース)のレギュレーターへの取りつけ

ドライスーツ用L.P.(中圧)ホースのレギュレーターファーストステージへの取り付けは必ずお買い上げの販売店で器材の取扱いに慣れたスタッフに依頼し、ファーストステージのL.P.(中圧)ポートに専用の工具を使って確実に締めつけてもらうようにしてください。

お客様ご自身で取り付けると、締めつけの不良などによってホースが外れ、重大な事故を招く可能性があります。また、逆に必要以上のトルクで締めると、ネジ山を痛める場合もあります。

警告

あやまってL.P.ホースを1stステージH.P.ポートに接続すると、ホース1stジョイント部が破損して、重大な事故を招く危険性があります。

L.P.(中圧)ホースは、特に破損や不良箇所がなくても、また使用状況にかかわらず、1〜2年毎を目安に販売店にて点検を受け必要があれば交換するようにしてください。長期間交換しないまま使用し続けると、外観上問題がなくても、経年劣化により破損を招く場合があり、非常に危険です。

ダイビング前の器材チェック

安全で快適なダイビングをお楽しみいただくためにも、ご使用になる前には必ず各部を点検してください。首と手首のシール部分や防水ファスナー、給気バルブの作動状態等に異常がある場合や少しでも疑いがある場合には絶対に使用せず、すみやかに販売店にて点検、修理を行ってください。

特に長期間（3ヶ月以上）使用しなかった場合には、使用前に必ず販売店にて点検を受けるようにしてください。もし、これらの点検、整備を怠った場合には、器材が正常に作動せず、重大な事故につながる可能性があります。

ご自宅でのチェック

ダイビングに出かける前に、まず、ご自宅で以下の項目をチェックしてください。

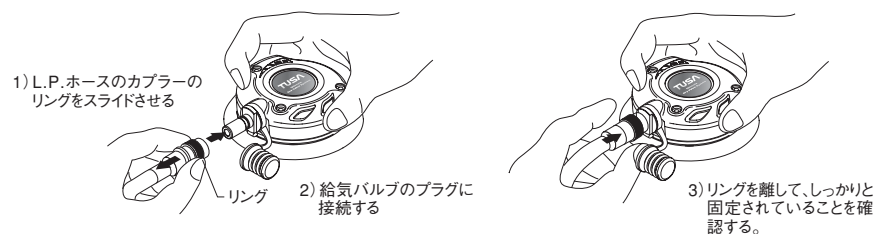
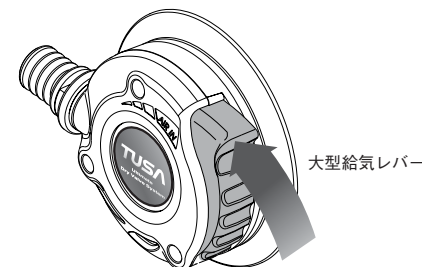
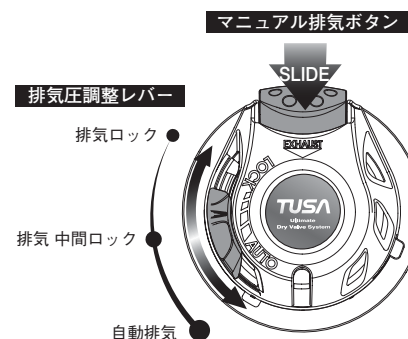
■ドライスーツの各部に、破損、キズ、磨耗、穴あきなどの異常がないかどうかを、細部までよく確認してください。特に、給気・排気バルブ、手首と首のシール部分、防水ファスナーは念入りに点検してください。

■防水ファスナー部分からの水漏れを防ぐため、ファスナーを開いて内側のシール部分を指でなぞり、ザラザラした違和感（砂・異物などの付着）がないかどうかを確認してください。

現地でのチェック

現地では実際にタンクのエアーを通して、以下の項目をチェックしてください。

バルブのチェック

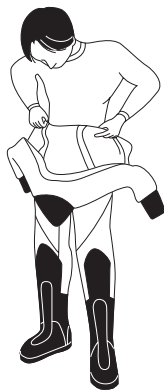
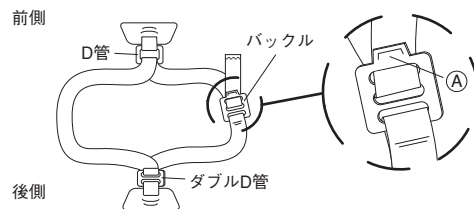
①着用が完了しスクーバユニットを装着したらドライ用L.P.ホースを給気バルブに接続します。このときに、他のホースとからまないように注意してください。

②給気バルブ中央の大型給気レバーを押してドライスーツ内に空気が供給されることを確認します。また、レバーを離したときに確実に空気が止まることを確認してください。

③防水ファスナーを閉鎖した時にスーツ内部に残った空気を利用して排気バルブの作動確認をしてください。排気圧調整レバーを「AUTO」の方向に回すと自動排気。「LOCK」の方向に回すと排気ロック（手動排気）となり、マニュアル排気ボタンを押したときだけ空気が排出されます。腰をかがめるなどしてスーツ内の内圧を上げて空気が排出されることを確認してください。オートでもマニュアル（排気ロックと排気中間ロックの2ポジション）でも排気の確認ができます。

ドライスーツ着用手順

ドライスーツを上手に使いこなすためには、正しい着用を行ってください。不確実な着用は水漏れを招きますので、必ずバディーと協力し合い、確認し合って着用するようにしてください。

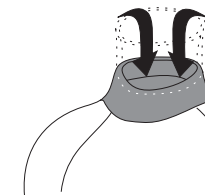
また、ドライスーツの機能を守るためにも、必ず砂や土、ほこり等のない平坦な場所にシート等を敷いた上で装着してください。特に防水ファスナー、首や手首のシール部分、給排気バルブに砂等が付着しないように注意してください。

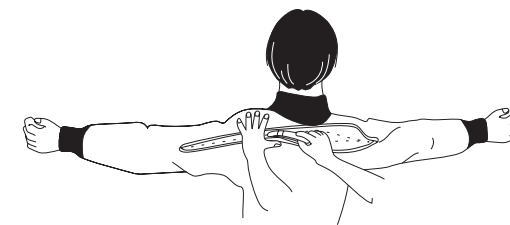
ドライスーツの装着手順

①ファスナーを全開にして、ドライスーツを上半身折り返し開口部より足から着用します。この際サスペンダーの中央に体を入れてください。

②腰まで入ったら下半身のフィッティングを確認します。水温が低い冬季に保温力を増すためにインナーウェアを着用する場合は裾がめくれ上がらないようストラップやソックスなどを用意してください。

③まず、バックルがついている方のサスペンダーを肩にかけ、バックルが胸に来るようにスーツを後方のD管で調節してください。
次に反対側のサスペンダーを肩にかけ、バックルで長さの調整をしてください。このとき、バックルのⒶ部分を引き上げながらベルトを引くと簡単に調節できます。

④ドライスーツを胸まで引き上げ両手首を通します。手首（リスト）はシール効果を高めるため内側をスキン地にしてありますので爪を立てないように注意してください。（スキン地に別売のTUSAスーツ用パウダーTEC-60を塗っておくとスムーズに手が通ります）手首は内側のスキン地を肌に密着させます。この時袖口は手首のくるぶしより上に来るようにします。折り返すと浸水の原因になりますので注意してください。

⑤両手首の装着が終わったら、ドライスーツネック部に首を通します。
ネック部を手で広げながら、装着してください。

⑥ネック部を内側に折り込みスキン地と首が密着していることを確認してください。（漏水の原因になりますので、折り込む際に髪の毛を巻き込んでいないことを確認してください。）また、手首同様スキン地に爪を立てないように注意してください。

⑦両手を横に水平に伸ばしバディの手を借りてインナーウェアなどをはさみ込まないように注意しながらスライダーを引き、ファスナーエンドまで閉鎖します。

※ドライスーツを脱ぐ時は、基本的に着る時と逆の手順で行います。脱ぐ前には、防水ファスナーを閉めて着用したままの状態で水洗いを行って下さい。(P18参照)
また、水洗いの後にもう一度タンクのエアーをスーツ内に入れると、スーツが脱ぎやすくなります。

⑧膝を曲げて下半身にたまったエアーを上半身に移動させ、排気バルブで余分なエアーを出すようにしてください。

ドライスーツの使用法

ドライスーツを使用するにあたっては、十分な知識と練習が必要です。必ず各潜水指導団体のドライスーツ専門講習を受けてください。万一、専門講習を受けずに使用すると重大な事故につながる危険性があります。

また、低水温ダイビングを行う場合には、別に各潜水指導団体の低水温ダイビング専門講習を必ず受けてください。

水中でのドライスーツのスクイズ調整を行うには、スーツ内に給排気をする必要があります。各指導団体によって講習で教える浮力の調整方法が異なりますので、浮力調整に関してはドライスーツ専門講習で習った方法に従うようにしてください。

適正ウエイトの選び方

ドライスーツはウェットスーツに比べて､より適正なウエイト調整と中性浮力が必要となります。ウエイトは重すぎても、軽すぎてもいけません。
特にこの製品を初めて使用される時には、必ずインストラクターの監督下でウエイト調整を十分実施してから使用してください。

また、着用するインナーウェアの種類によって必要なウエイト量は変わります。前回のダイビングと異なるインナーウェアを着用する際には、その都度、ウエイト調整を行う必要があります。

なお、淡水と海水では必要なウエイト量が当然異なりますので、必ず、淡水でダイビングをする時には淡水、海水でダイビングをする時には海水でウエイト調整を行ってください。

次に、参考として一般的なウエイトの選び方を記しておきます。基本的にはあくまでも各潜水指導団体の推奨方法に従って調整を行ってください。

① ダイビング中に使用するインナーウェアを着用して、スクーバの全装備（エアータンクやアンクルウエイトを含む）を装着します。この時、ドライスーツとBCJ内のエアーは完全に抜いて抜いておいてください。

② 波のない安全な水域でちょうど胸のあたりまで水が来る程度の水深の深さに立ちます。

③ ひざを曲げて体を浮かし、レギュレーターを加えて呼吸した時に水面が目の位置に留まっていられるレベルが適正なウエイト（中性浮力）です。適正状態になるまで、ウエイトの量を小刻みに加減して調整してください。

アンクルウエイト

■ アンクルウエイトは、水中バランスの調整にも有効で、水中でのブーツ部分へのエアーだまりを未然に防ぎやすくします。微妙なウエイト調整や水中バランスの調整にも有効です。アンクルウエイトは、バランスの関係上、必ず両足に同じ重量をとりつけてください。

※ まれに、ブーツ部分にエアーが集中的にたまって、水中で「逆立ち現象」が起こることがあります。そのような状態になると、排気バルブの位置の関係からエアーを抜くことが出来ませんので、勢いをつけて、身体を降りたたむような姿勢から後転して両足を下に持って行くようにしてください。足が下に来た時点でエアーが上部に移動し、元の姿勢に戻ることが出来ます。（バディに手伝ってもらうと楽に出来ます。）

給気バルブの操作法（基本的に講習を受け、指導団体の方法に従ってください）

給気バルブはドライスーツ用L.P.(中圧）ホース先端のカプラーをバルブサイドのプラグに接続することによって使用可能となります。カプラー先端のリングを手前に引きながら、給気バルブのインレットソケットにしっかりと差し込んでください。

まず、入水時からある程度潜降するまでは、ドライスーツ内にエアーを入れないようにしてください。水面付近でのスーツ内のエアーは、ダイバー自身の動きをさまたげ、首のシール部分にたまったエアーが首をしめつけます。水面上の浮力確保と潜降の開始は、BCJのエアーコントロールによって行ってください。

しかし、深く潜って行くに従って、水圧は強く（水面に比べ、水深10mで約2倍、水深30mで約4倍）なり、逆にドライスーツによる浮力は減少します。

水深による浮力の変化はウェットスーツと異なり、ドライスーツの場合は、「ドライスーツ内の空気の圧縮による変化」があります。

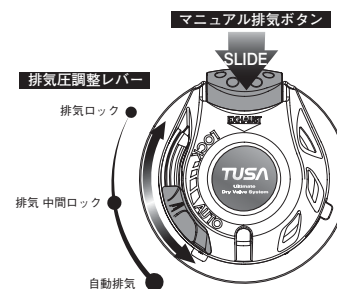
特に「ドライスーツ内の空気の変化」は、「クロロプレン素材の変化」に比べて割合が大きいので、浮力低下の速度は、ウェットスーツの場合より大きくなります。

スーツ内に給気をしないでダイビングを行うと、スクイズが発生しますので、必ず給気を行ってスクイズ状態を解除してください。また、浮力低下に注意を払い、必ず指導団体の方法に従って、こまめに浮力調整を行ってください。

■ドライスーツの給気バルブの大型給気レバーを指先で押すことによって、スーツ内に給気を行うことができます。スクイズを感じる前に必ず給気を行ってください。

■基本的にスクイズがとれたら給気をストップします。給気レバーを押し続け、排気バルブ（AUTO）から泡が連続して出始めた時は給気を止めてください。

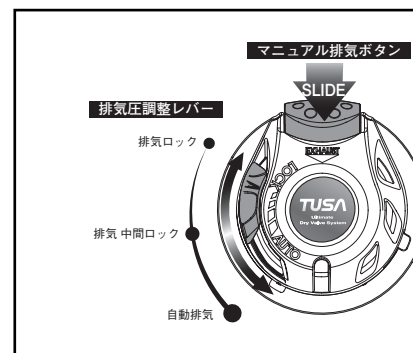
※姿勢の変化で一瞬、泡が出ることがありますが、これは給気のし過ぎによるものではありません。

排気バルブの操作法（基本的に講習を受け、指導団体の方法に従ってください）

TUSAのドライスーツは、自動排気バルブを採用しています。自動排気バルブは、AUTO（の文字）方向に排気圧調整レバーをスライドさせるとドライスーツ内の圧力が低く（スーツの膨らみ具合が小さく）保たれます。LOCK方向にスライドさせると、排気ボタンを押すまで排気出来ません。（バルブの破損を防ぐために、過膨張のエアーは排気されます。）

レジャーダイバーは基本的に常にAUTOの位置で使用することをお勧めします。

■AUTOの位置にセットされていれば、余分なエアーは自動的に排気されます。しかし、特に浮上時には「自動排気」バルブに100%頼るのではなく、浮上スピードに注意しながら左上腕部を肩より上に上げ、排気具合を確認してください。排気が確認出来ない時は、下記のように「マニュアル排気」を行ってください。

■AUTOの位置にセットされていても、排気ボタンを押して排気することが可能です。

■排気中間ロックの位置にセットされていること、排気ロックの位置より、やや多くのエアーが自動的に排出されます。

「マニュアル排気」「自動排気」ともに、排気ボタンを押し続けると、ドライスーツ内のエアーが全て抜けるまで排気してしまいますので、排気ボタンを押して排気する際には、エアーを抜き過ぎないようご注意ください。

トラブル発生時の対応

ドライスーツ使用中のトラブルとして考えられるのが、給気バルブのマニュアル排気ボタンが押されたまま戻らず、エアーが入り放しになってしまうことです。

このような状態になることは極めてまれですが、なった場合には急浮上（吹上げ）による減圧症、及び呼吸を止めた場合にはエアーエンボリズムにかかる可能性が生じますので、以下のような対応方法を素早くとるとともに、ダイビング前にバディとトラブル発生時の合図の確認をよく行ってください。

① まず、ドライスーツ用のL.P.（中圧ホース）のカプラー先端のリングを引きながら、引き抜いてください。一般的に、タンクバルブが開いている状態でのカプラーは抜きづらくなっていますが、このカプラーは簡単に抜くことができます。

もしも、カプラーが抜けない場合には見切りをつけて②の行動に移ってください。

② 排気バルブの排気ボタンを押し続けて連続排気を行い浮上を抑えます。（水面に浮上するまで、排気を続けてください。）万一、排気バルブで浮上が押さえられない場合には、ネックシール部分に指先を入れてすき間を作りそこから中のエアーを出します。（スーツ内に水が入って来ますが、とにかく急浮上を防ぐことが最優先です。）
※この時BCJのエアーは完全に抜けていなければいけません。

③ 上記①か②の方法で浮上を抑えたら、バディに給気バルブが故障したことを合図し、BCJのウエストストラップなどを掴んでもらうことによって、自分の身体を抑えてもらいます。

④ そして、その時点でダイビングを中止し、必ずバディの中性浮力コントロールによって残圧の範囲内で十分に減圧をしながら浮上してください。

> 次のダイビングでは、ドライスーツを絶対に使用せず、販売店もしくはTUSAメンテナンスサービスセンター（P21参照）にて点検、修理を行ってください。
>
> また、スーツに穴が開いたり、防水ファスナーが破損したり、バルブの故障などが起こってスーツ内に水が侵入してしまった場合には必ずダイビングを中止してください。

日常の点検と保管

ダイビング終了直後

器材を出来るかぎり長持ちさせるために、また、次回に安全で快適なダイビングを楽しむためにも、ダイビング終了後は、出来るだけ早く真水にて水洗いを行ってください。
（ドライスーツがまだ濡れているうちに水洗いするのがもっとも効果的です。）

① ドライスーツは、防水ファスナーを閉めて着用したまま、真水で洗うのが最も簡単です。（ある程度エアーを入れたままにしておくと洗いやすく、水洗後にスーツを脱ぐ時も容易です。）本体、バルブをていねいに洗ってください。

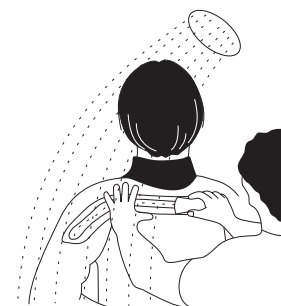
② シャワー、ホースによる放水などを身体に浴びせてていねいに塩分や汚れを落とします。特に排気バルブは砂等で目づまりする場合がありますので、注意深く洗ってください。

防水ファスナーを閉めて水洗

③ 乾燥させづらいので、ドライスーツの内側はなるべく洗わないようにしてください。TUSA消臭スプレー（別売）等を内側に吹きかけると消臭、抗菌効果が得られます。
（水もれがあったり、ひどく汗をかいてしまった時に限って、内側も洗ってください。）

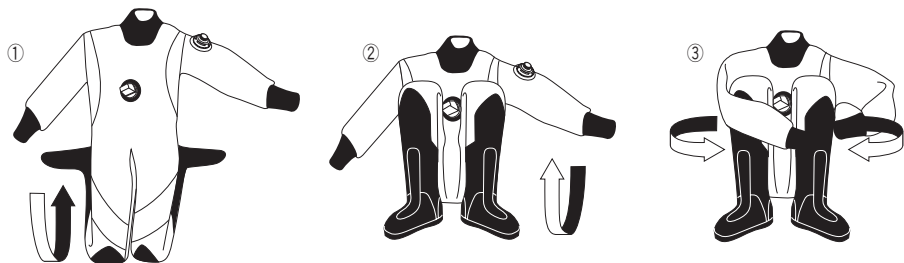
④ 水洗いをした後、着用したまま防水ファスナーを開けずに排気バルブを「LOCK」にして給気バルブから空気を入れます。排気ボタンを押して空気とバルブ内の水を同時に排出してください。塩分や汚れが十分に落ちたら、ドライスーツを、ほこりや砂、土等がつかないきれいで平坦な場所（ビニールシートを敷くと良い）で、バディに手伝ってもらいながら脱いでください。

⑤ 洗ったドライスーツを、膝またはウエストのところで折れるように、太い棒等にかけて陰干ししてください。製品素材を守るためにも直射日光下では干さないようにしてください。また、防水ファスナーは開けた状態で絶対に負担をかけないようにして、砂やほこり等の付着を避けて干してください。

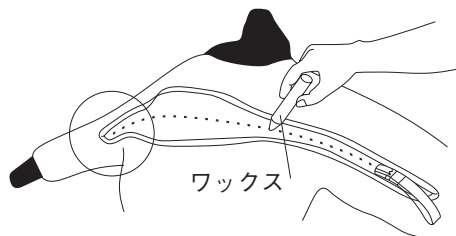
⑥ 当日、帰宅する等でパッキングする必要がある時でも、少なくとも水滴の滴りがなくなるまでは陰干しをしてください。（内側も洗った時には、スーツを裏返して同様に干してください。）

ドライスーツのたたみ方

短期間の保管の場合は、全体を良く乾燥させた後、防水ファスナーを開けたままファスナーに負荷がかからないように注意して、ブーツ部分を後に折り曲げます。つぎに、②のように腰で再度折り曲げます。最後に腕部分でヒザを抱く様にブーツ部分を巻き込みます。(下図の①〜③)

保管中は他の器材の下敷きになって防水ファスナーが折れることがありますので、別々に保管することをお薦めします。

保管中はドライ用L.P.ホースのインレットソケットに砂等が付着しないようにソケットキャップを装着してください。

帰宅後

① 帰宅後はもう1度、膝またはウエストのところで折れるように、物干し竿等にかけて、直射日光を避けて陰干しをしてください。(内側も洗った時には、スーツを裏返して同様に干してください。)
なお、ダイビング直後の乾燥が不十分で、異臭等がする場合は、風呂場の浴槽等にきれいな水をためてスーツをしばらく浸し、ドライスーツ内外をよく洗ってから陰干ししてください。

② 十分に乾燥させたら、首と手首のシール部分の内側にパウダーをふっておきます。また、防水ファスナーには、固形ワックス(パラフィン)を十分に塗ってください。シリコンスプレーは、絶対に使用しないでください。

③ 保管は、防水ファスナーを開けた状態で幅広のハンガーにかけて、ブーツ部分が少し床につく状態で行ってください。その際、特にファスナー部分にほこりがかからないよう大きなビニール袋を（ハンガーのフックの穴だけ開けて）被せて置いてください。また、小さなハンガーは首のシール部分に負担がかかりますので、使わないでください。

保管のスペースが無い場合は、前項の要領でドライスーツをゆるくたたみ、同様にビニール袋の中に入れて置いてください。その際は、防水ファスナーを守るためにも上から絶対にものを置かないでください。

また、ネックシール、リストシールをつぶさないように保管ください。特に手首シール内側には折りぐせ、つぶれ跡ができると、水もれの原因になります。

防水ファスナーの取り扱い

使用上の注意

●水温が-5℃以下のところでは使用しないでください。PVCが硬化し、曲げや折れにより防水性が低下します。

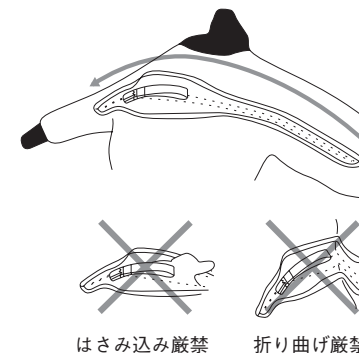
●防水性保持のため、スライダーを先端にキッチリと密着するまで閉じて使用してください。

●ファスナーを開閉する前にエレメント部の内側、外側についている付着物（砂、泥等）を水またはブラシなどできれいに取り除いてください。

●ファスナーが背面部あるいは側面部に付いている場合、他の人に開閉してもらうよう心がけてください。

はさみ込み厳禁　折り曲げ厳禁

●ドライスーツを使用する際は下着を身に付けてください。

●下着などの生地がファスナーにはさまったり途中重くなったり、動かなくなったときは、スライダーを開ける方向に少し戻し、引っかけている場所を確認し、異物を除去してからゆっくりと閉めてください。

定期点検

ダイビング器材は、使用しなくても経時劣化が起こります。ダイビング数でタンク100本、または使用状況にかかわらず、購入後もしくはオーバーホール後1年間を経過した時点を目安に、必ず販売店に器材の点検を依頼し、必要に応じてオーバーホールを受けるようにしてください。定期的なオーバーホールを怠った場合は、器材が正常に作動せず重大な事故につながる可能性があります。

もし、お近くにダイビングショップがない場合は、オーバーホール器材を下記住所までご送付ください。

〒319-2134　茨城県常陸大宮市工業団地651-2
TUSAメンテナンスサービスセンター
☎0295-52-5621（まず、お電話にてご連絡ください。）

その他の注意事項

■ ドライスーツは絶対に洗濯機やドライクリーニングで洗わないでください。バルブはもちろん、素材を縮める可能性があります。

■ ドライスーツは乾燥機（コインランドリー等）やドライヤー等で乾燥させないでください。

■ 使用しなくなったドライスーツは、必ず不燃ゴミで処理をするようにしてください。燃やすと有毒ガスが発生して危険です。

■ 製造時に使用した溶剤などが原因で皮膚・呼吸障害を起こす恐れがあります。異常が生じた場合は直ちに使用を中止し、新鮮な空気が吸える場所に移ってください。その後は必要に応じて医師の診察を受け、その指示に従ってください。

■ このドライスーツの素材は、火に近付けると燃焼したり、焦げたりする可能性がありますので、絶対に火を近付けないでください。

■「カイロ」「使い捨てカイロ」等は、やけどなどの原因になりますので使用しないでください。

■ インナーウェアは必ず着用してください。素肌の上からスーツを着用するとと、スクイズや摩擦によってすり傷ができます。